

2014 年度前期「科学技術と現代社会」達成目標評価基準

2014. 6. 22 最終版

評価 (Letter Grade)	達成目標1 (総合的判断力)	達成目標2 (論理的思考力)	達成目標3 (情報収集力)	達成目標4 (文章表現力)
	科学技術が関わる社会問題について、多面的に考察し、総合的に判断することができる。	根拠に基づいて、自分の意見を主張したり、他人の意見を批判したりすることができる。	多様なメディアを活用して必要な情報を集め、自らの考えを深めることができる。	理解したこと、考えたことを、学術的作法に則って表現することができる。
S	幅広い視野の下に、問題の背景にも触れつつ、論点を明確化している。自分の意見とは異なる立場を含め、様々な角度から問題を考察し、全体を総合してバランスの取れた結論を導いている。	説得力のある十分な根拠を示しつつ、自分の意見を明確に主張し、また、他人の意見を批判している。自分の意見に対する反論を想定し、あらかじめ再反論している。	図書・雑誌・ウェブなど多様な情報源から十分な情報を集め、その情報を吟味した上で、自らの議論に組み込んでいる。	序論・本論・結論の構成がしっかりしている。結論を導くために議論が論理的に展開され、接続詞も適切に使われている。言葉の選択が適切で、意味が取りやすい。文章に過不足がなく、長さも適切である。出典の明示や適切な引用が行われている。
A	論点を明確化した上で、様々な角度から考察し、全体を総合してバランスの取れた結論を導いている。	ある程度説得力のある根拠を示しつつ、自分の意見を明確に主張し、また、他人の意見を批判している。	多様性は少ないものの、複数の情報源から情報を集め、その情報を吟味した上で、自らの議論に組み込んでいる。	序論・本論・結論の構成がしっかりしている。議論の展開はおおむね論理的であり、接続詞の使い方もほぼ適切である。言葉の選択はほぼ適切で、意味が取りにくい部分はほとんどない。出典の明示や適切な引用が行われている。
B	論点を明確化してはいるが、考察がやや一面的で、多様な視点を十分に考慮に入れた結論になっていない。	根拠は示しているものの、その根拠と結論の間には多少の飛躍があり、やや説得力を欠く。	教員から提供された情報以外では、少数の情報源からの情報に依拠して、自らの議論を進めている。	序論・本論・結論の構成が不明確である。議論の展開が必ずしも論理的ではないため、議論の流れが分かりにくい部分がある。接続詞を含め、言葉の選択が不適切で、意味が取りにくい部分がある。出典の表示や引用の仕方が不十分である。
C	論点の把握が不十分である。かつ／あるいは、考察と結論がかなり一面的である。	根拠は示しているものの、その根拠と結論の間には大きな飛躍があり、かなり説得力を欠く。	教員から提供された情報以外に自ら集めた情報がほとんどない。	序論・本論・結論の構成が不明確である。議論の展開が必ずしも論理的ではないため、議論の流れが分かりにくい部分が少なくない。接続詞を含め、言葉の選択が不適切で、意味が取りにくい部分が少なくない。出典の明示や適切な引用が行われていない。
D	論点がきちんと把握できていない。かつ／あるいは、極めて一面的な考察を行い、偏った結論を導いている。あるいは、結論が不明確である。	ほとんど根拠なく、自分の意見を主張し、また、他人の意見を批判している。あるいは、そうした主張や批判が行われていない。	教員から提供された情報すらも、十分に活用していない。	序論・本論・結論の構成がないか、あっても不明確で、何を議論しているのかが分かりにくい。議論の展開も論理的でない部分が多く、議論の流れが分かりにくい。言葉の選択が不適切で、意味が取りにくい部分が多い。あるいは、自分の言葉で表現されておらず、不自然な部分がある。あるいは、剽窃あるいはそれに近い表現がある。出典の明示や適切な引用が行われていない。